

小田原史談

第41号

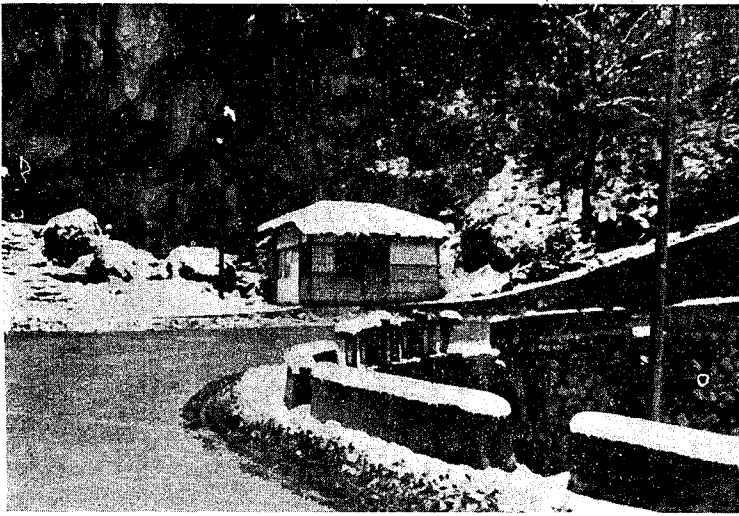
発行所 小田原史談会
小田原市幸一丁目内
郷土文化館

清水印刷

印刷の御用は
小田原市幸一ノ一七
電話小田原三四七七番

二月二十四日小田原地方は一面の銀世界と化した。暖かいこの地に雪が積ったのは珍しい。今年のこの春の雪が初雪であり、雪見に出かける風流人もあり、農家では今年の豊年のしるしとして喜び合った

(写真は箱根街道の雪景)



「戦後」の意識

戦前、戦後という時代区分は、少なくとも文化現象を考える場合には、かなり曖昧なものであり、これを絶対化すると、種々の危険な誤認が生れ「戦後」の性格をとらえそこなうのではないか。

昭和二十年以後、我々の経験したことは、たしかに我が国の歴史始まって以来かつてなかった事態だったのであるが、それらの多くは、戦争という大事件の始末で、あとに反らぬ決定的変化というより、一時の変態現象だったのです。

たとえば食料の不足は、戦争中から戦後の一時期にかけて、我々のもつとも痛切な関心事でしたが、過ぎ去ってしまったえば今では思いだす人もありません。いわゆる「戦後」の意識は、これらの変態現象を、決定的な変化と思ひ込み、或は思い込みもうとしたところから生れた部分が多いのです。

戦後二十年目から三年経つと、我々は明治維新後百年を迎えます。近ごろ江戸時代に、日本の近代化の要因を見出そうとする研究がさかんですが、それならば当然、戦後の社会も多くの戦前的な要因から成り立っていることが、もっとはつきり認めらるべきでしょう。過去の

つながりを知ることが、未来を束縛するように思うのは、人間の自由について考えたことのない進歩的決定論者の迷信です。

現代人の生活は一日一日の激しい勢で押し流されていますが、一方知識としての過去は益々豊富な形で我々の眼前に堆積されます。生きた歴史意識はこの両者をつなぐ知恵であり、それは変化の甚だしい時代に特に切実に求められるのです。深く根を張った木だけが強い風に堪えられる道理ですから。(「芸術生活」中村光夫)

からすうり

白鳥省吾

海を背景として
梅の樹に
烏瓜が百あまり
朱のランプをともしている
雨の中に
とうに憂は枯れて
ばらばらになつて
それでも烏瓜は
梅の枝にからみついている
無一物の詩人は
この烏瓜の豪華を眺めて
自然の浪費を考ふる
美しいシャンデリアは
降る雨に艶を増して
凋落の時間を忘れる。

——外房一宮の山荘にて

江戸城

江戸の名が史上に現われたのは平安時代末期、秩父七平氏の一流江戸氏が武蔵豊島郷江戸に城を構え、その地名をもって姓としたことにはじまる。鎌倉幕府が編集した「吾妻鏡」には武蔵の頭領だった江戸太郎重長の名があり、江戸氏の館は、後の江戸城本丸あたりと推定されている。

入江の一漁村で、今の丸の内付近までが松原つづきの波打ち際だったらしい。以上の二説を考へみると、道灌が江戸を築城して開祖とするのは当たらない。江戸の重継から伝わっているが平家の出身でありながら源氏に仕え、よくに頼朝に重く用いられた。やがて鎌倉幕府は滅び、足利尊氏が京都に幕府を開くが、新田義興を矢口の渡しで謀殺した江戸遠江守義尊も太郎重長の一族だったという。

さて、東國の向背を重要視した尊氏は、次男の基氏を鎌倉へ派遣、関東管領に任命した。その執事が上杉氏だ。のちに、基氏の曾孫にあたる持氏は幕府に不満を抱き、みづから將軍に擬して公方と呼ぶとともに、上杉氏を管領と称した。これがもとで古河方、管領上杉の両家が争うことになるのだが、若き道灌は管領方の有力者、扇谷上杉氏の執事だった。そこで、道灌が江戸氏の館を継いで、居城を構築し

たこととみるべきであるがその経緯はつまびらかでない。一時は八ヶ国の大福長者と言われた江戸氏も道灌の時代には喜多見（現在の世田谷区内）に移っていた。或は道灌と戦って追われたのかも知れないが、とにかく江戸氏の名は「こうして歴史から消えた。もともと、道灌が築いた江戸城の構造も、はっきりしないのである。東京都が昭和三十一年に発行した「東京五百年」は「徳川氏時代の大規模とは比べものにならないにしても、干城・中城・外城と三重の構えになっており、周囲に深い堀がめぐらし、二十五の石門があつて、その各々に橋がかけてあつたという」と言っているが、石垣などは全然なく、芝を植えた土堤で粗末なものであつたと近代歴史家は言っている。

問に答へて
我が庵は松原つづき
海近く
富士の高嶺を
軒端にぞ見る
と詠んで大いに面目をほどこした。当時、江戸は「江戸の門」といふように

たこととみるべきであるがその経緯はつまびらかでない。一時は八ヶ国の大福長者と言われた江戸氏も道灌の時代には喜多見（現在の世田谷区内）に移っていた。或は道灌と戦って追われたのかも知れないが、とにかく江戸氏の名は「こうして歴史から消えた。もともと、道灌が築いた江戸城の構造も、はっきりしないのである。東京都が昭和三十一年に発行した「東京五百年」は「徳川氏時代の大規模とは比べものにならないにしても、干城・中城・外城と三重の構えになっており、周囲に深い堀がめぐらし、二十五の石門があつて、その各々に橋がかけてあつたという」と言っているが、石垣などは全然なく、芝を植えた土堤で粗末なものであつたと近代歴史家は言っている。

した秀吉の所有となつたのは、道灌の築城後百三十年である。秀吉は直ちに徳川家康に關八州を与え、家康ははじめ小田原か鎌倉に幕府を開くつもりであつたのが、秀吉にすすめられて江戸を居城と定めたと言われている（東京五百年誌・日本名城伝等参照、主として東京タイムズ「東京つれづれ草」引用）

このしろ

の葬式

広沢十五夜

小田原で生れ、育つた私は子供の頃から、よくこんなことを聞かされていた。病人が重態となつても、もう駄目だろうと言われるころ、その病人によく言いかけて、以後このしろは絶対に食べません。というのを誓わせ、それから魚屋からこのしろを買って来て、これを丁寧にむらり、人間と同じようにして葬式を出してやる。そして仏壇を飾り、香華をたむけ、型の如くお経もあげ、途中葬列は排してもよ

やる。このしろは、その病人のやまいを持つて行き、病人は次第によりなり治つてしまふということである。私はこのしろの葬式を出して実際に病気の治つた人の話を紹介しよう。その一人は、市内幸一丁目、かのや今井久吉さんで、この話は今から四十年ほど前の話になるが、当の今井さんは今日七十五、六才で、達者で、時おりお店に座っておられる。もう一人の人は、幸二丁目花菱の岡田博礼さんであるが、岡田さんは、今井さんのあとでこのしろの葬式を出された人であるが、この人も助かり、十年ほど生きられたが今は故人になっておられる。この今井さんにしても、岡田さんにしても、寿命があつたのだと言へばそれまでであるが、私は今でも不思議に思われてならぬもの一つとして、このことを忘れないのである。

小田原と九州

内田 武雄

小田原といへば誰でも梅干とかまほこを思い出す。小田原梅干の原産地は下會である。梅は中国から奈良時代我が國に伝つたもので、万葉集のこの花梅がそれである。先年下會我遺蹟の奈良時代の地層から中形バケツ一杯の小梅の種が出土しているのを見ても早くから小田原地方に栽培されていたかがわかる。下會我といへば日本三大仇討の一つに数えられてゐる會我兄弟が育つた所で、今年も五月二十八日もなれば下會我の城前寺において傘焼式が行なわれる事でしょう。この式は戦時中は中断されてゐたが、戦後また復活して今では下會我商工会と城前寺の檀家によって盛んに行なわれるようになった。当日はたくさんのお坊さんによって會我兄弟の追善供養が行なわれた後、四五才位の男の子が五郎と十郎に扮して沢山の雨傘を山のよう

の二人の子供によってたいまつがうつつされ、お坊さんの説経のうちに式が終るのである。

この行事の起こりは伝説によると、曾我兄弟が討入りの時、かむっていた傘をたいまつがわりに燃やした事から起ったとか言われている。

これと同じ傘焼き行事が九州鹿兒島でも行なわれている。数年前のことであるが、下曾我郵便局の会計監査に来た酒匂氏という人が「私は九州の生れだが私の先祖は酒匂川のはとりである」と聞いている。下曾我で五月二十八日に傘焼き行事をやるそうだが、私の生れた土地も同じ行事をやっている。何か小田原と九州とのつながりがあるのではなからうか」と話してくれたことがある。

その後私はこれらの事についていろいろ調べた結果古くは下曾我は大友氏の領土で、元文中(一一〇四)ごろ大友能直は源頼朝の命により鎮西守護で九州へ移って相模の大友氏は筑後に入り、また木村氏も出て中には源氏姓を名乗った者もい

るが代々鎮西奉行をつとめる時、酒匂氏も共に九州へ行ったのであろう。酒匂氏の先祖は、天平七年相模國の初代国司正六位行椽勳十二等酒波入鷹、酒匂の豪族で鎌倉時代には相模國の馬の守をつとめている。この中の誰かが九州へ下り祖先の姓をそのまま受け継いで今日に至り、酒匂氏(九州ではさこう氏)として繁栄しているのではしょう。

頼朝の愛妾丹後局は実は大友氏の女で政子の為に一命危ういところを畠山重忠の機智で一旦厚木の奥の小野の里に隠れ、更に遠く九州鹿兒島落ちの際、身重の旅路で相模國を去る時、母親の妙法尼と千代の長立庵でしばしの別れを惜しみ酒匂川の下手に道を取り暗い闇路を歩いていたら時、縮荷森(とうかの森、今の鴨宮より飯泉へ出る間)のあたりで沢山の狐火が現われて道を明るく照らし、白狐が途中まで守護したという丹後局が九州落ちしたのは当時、父大友氏は檢比使左衛門尉豊後守であるので、これを頼って下ったのであ

ろ。丹後局の子が島津家であると言われて、今でも島津家の守護神はお稻荷様だと言われている。先日、菱田長平氏の宅を訪ねた時丁度、鹿兒島の客人で本田さんという人から九州の傘焼き行事の話が出た。本田さんの話によると、五月二十八日に甲突川の中央に台場を造り、その中央に沢山の雨傘を積み上げて火を燃やし、皆で「そもそも曾我のはらからが、幼なき時の名を問えば兄を十郎、弟を曾我の五郎と言いにけり、云々……」こんなふうに着て歌いながら火のまわりをめぐる。また川に入り、みそぎもすると話してくれたが今では雨傘がないので困っているそうである。去年オリンピックに外人がさした雨傘を全部もちって持ち帰ったのでいくらか助かるなどと笑えない事実である。鎌倉時代頼朝公は自分の直属の部下を遠く九州へ送って国家の安定を図ったので、沢山の相模の人々が九州へ下ったようである。

文苑

反省

佐藤 春子
怒りをば内に秘め得ずあらわして侮の尾を引く悟り得ぬ身は
進み行く世の置き去りに遇ふ身とは知りつつ古きからぬぎ得ず
かかる時かく言ひまししと亡き夫の教へ偲びて身を省みる

雑詠三首

菱田 長平

牡丹雪降る夜のしじま破り
つつ新幹線をうなり行く汽車
わたり鳥来鳴かずなりぬわがやどの庭の椋の木枯れは
てしより
またしても財布すられぬおろかなるわが身はかなみバスを降りたり

小田原歳時記

四月 和名・卯月

朔日 衣がえ
今日から五月四日まであわせを齋るのできょうを衣がえという。
八日 浴仏日、灌仏ともいう。

今日仏に水を浴せる事が推古天皇の御宇より始まりと。
寺院では釈尊の像を椿の花などで飾り、甘茶を出すを子供らあらそって貰いに参じた。
ほうそう、麻彦

四月に限らないが、春さきに流行するので、ほうそうが出る。「鎮西八郎為朝御宿」と赤い紙に書いて門戸に貼った。
またほうそうが軽く済んで、お湯かけが終るとさん俵にご弊をたて、赤飯を供えて「鎮西八郎為朝御引」と言って、道路の辻に置いた。
おゆかけ(お湯かけ)
風のクソ・あつき・米粒を各三粒ずつお湯に入れてさん俵を頭に乘せて、上から笹の葉でそのお湯をかける。そして「おてんとうさんのご承引」と言った。

磯遊びで、石橋あたりに潮干に行き、小さな貝をとって持ち帰り、中身をゆでて去り、その殻を、おはじきと同じ遊びに用いた。きしやごとは貝の名。

桜花 当時この地方には極めて少なく、花見に殊更出かける者はなかった。

編集後記

▼小田原市長も二月七日行なわれた選挙に現市長鈴木十郎氏が目出たく当選され引続き五回市長の席につかされた。氏の今までの功績は市民の等しく認むるところ、次点を遠く引き離して当選されたことも、氏に対する市民の信念厚く且また将来氏の力に待つもの多大なるを示すものである。どうぞご健康に注意されて将来とも市民の福利にご配慮を願うとともに、わが史談会も会長として今後とも可愛がっていただきたい。

▼大沢十五夜氏の「このしるの葬式」は面白い。各地いろいろの慣習があり、民俗史の資料としても興味深さを覚える。かかる記事は大いに歓迎する。他にもかくれた此種の風俗慣習があればご寄稿を願いたい。

▼本年は理事の改選期でもあり、史談会設立十年にも相当する。なんらかの記念事業を試み、気分を新たにしたいものである。(M)

きしやご

| | |
|---|---|
| <p>小田原信用金庫</p> <p>小田原市幸1の179 (電話(0465)23121)</p> <p>理事長 鈴木十郎</p> <p>十字町支店 (電話25121代) 緑町支店 (電話25124代) 湯本町支店 (電話箱根(6)5518-9) 国府津支店 (電話(4)2191-2) 鴨宮支店 (電話(4)2138代)</p> | <p>日本交通公社協定</p> <p>旧本陣 古清水旅館</p> <p>小田原市幸町老丁目・宮の前</p> <p>電話 { (2) 0 3 3 6 (2) 2 2 1 6</p> |
|---|---|

| | | | |
|--|--|---|--|
| <p>御料理 御弁当 仕出し</p> <p>東華軒</p> <p>代表取締役 飯沼相三郎</p> <p>小田原駅前 TEL (0165) 25061~2</p> | <p>楽しい生活 明るい読書</p> <p>八小堂</p> <p>小田原駅前 TEL 25388~9</p> | <p>神奈川県建設協会 小田原支部</p> <p>小田原市網一色373 電話(0465)20084 4288 4289</p> | <p>小田原駅前</p> <p>あさひ 食堂</p> |
|--|--|---|--|

| | | | |
|---|---|--|---|
| <p>あなたの暮しのムードをつくる</p> <p>婦人・子供の店</p> <p>小田原 メリヤス</p> <p>小田原市錦通り TEL (0465) 23837 3864</p> | <p>建築金物 家庭金物</p> <p>株式会社 星崎仲吉商店</p> <p>小田原市多古412番地 電話2718</p> | <p>酒・ビール・食料品</p> <p>今井重雄商店</p> <p>小田原市幸三 電話22234~5</p> | <p>写真</p> <p>イガラシ</p> <p>小田原市幸3 TEL 22534</p> |
|---|---|--|---|

| | | | |
|--|---|---|---|
| <p>きそば 庵</p> <p>小田原駅前 電話2二八六二</p> | <p>あなたの洋品店</p> <p>はふや</p> <p>小田原幸町 TEL 2307</p> | <p>家庭電化で明るい暮らしを</p> <p>(有) 岡田電器</p> <p>小田原市十字1の22 電話 2613, 5308</p> | <p>有限会社 あめあるよ</p> <p>代表取締役 川口 浩</p> <p>小田原市曾我谷津616番地 電話 (0465)(4) 3808番</p> |
|--|---|---|---|

| | | | |
|--|--|---|--|
| <p>印刷の御用命は</p> <p>有限会社 鶴井印刷所</p> <p>小田原市緑三ノ二七 電話 24211七</p> | <p>料理割烹</p> <p>だるま</p> <p>小田原市幸1~10 TEL 4128</p> | <p>セトモノの御用は (陶磁器・陶管・植木鉢)</p> <p>有限会社 大川商店</p> <p>TEL 28513・3055</p> | <p>浄化槽の清掃修理</p> <p>小田原市緑1の47</p> <p>小田原衛生株式会社</p> <p>電話 25861・2468番 取締役社長 鈴木 浩</p> |
|--|--|---|--|

| | | | |
|---|---|--|--|
| <p>電気工事一式・設計・請負 販売修理</p> <p>兵藤電気商会</p> <p>小田原市下曾我駅前 電話小田原(4) 3578番</p> | <p>建築用材一式 (建築御用命一切承ります)</p> <p>稲葉材木店</p> <p>小田原市十字1~23 電話25621 新玉3~751 電話26884</p> | <p>杉山康輔会計事務所</p> <p>小田原市新玉2~276 電話 25722</p> | <p>☆丁寧迅速の 清水印刷株式会社</p> <p>小田原市幸1/17 電話 23477番</p> |
|---|---|--|--|